

ひまわり

2018
MAR

もくじ

- 2・3 情勢 ~署名にご協力お願いします!~
- 4 ちょっと聞いてよ! 第15回
機関紙コンクールで最優秀賞でした!
- 5 今年もアビリンピック京都大会に参加しました!!
- 6 お知らせ・時・ご寄付

お仕事がんばってます!(かめおか作業所)

社会福祉法人 亀岡福祉会

法人本部: 〒621-0033 京都府亀岡市藤田野町佐伯大門30-1

TEL: 0771-24-2596 FAX: 0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

署名にご協力お願いします！

井尻あゆみ

AYUMI IJIRI

居宅生活支援部
センター長



少しずつ、春らしくなってきた今日この頃、みなさんはいかががお過ごしでしょうか？

亀岡福祉会では、毎年行なっている第41次きょうされん国会請願署名・募金運動全国キャンペーン(2017年～2018年4月)で障害のあるメンバーや事業所職員が街頭で、市民の皆さんに直接、障害のある人たちの働くことやくらしの現状をお話しさせて頂く機会になっています。街中で元気に訴える姿を見かけられたら、是非、署名・募金にご協力いただければうれしく思います。



障害があっても1人の市民として 生きることを応援する制度に！

今の日本は、高齢者や障害のある人の所得がとて低くて問題になっています。高齢者の貧困率は、OECD加盟25カ国中ワースト7位です。障害のある人たちの所得は障害基礎年金と合わせて月額10万円未満の人が7割を超えていて、年収にしても122万円以下の人たちが8割という実態です。多くの障害のある人たちが、貧困な生活を強いられていて、自分たちが思い描く暮らしができていないのが現状です。成人したら親元を離れて一人暮らしがしたい。好きな人と結婚したい。親が元気なうちにグループホームに入りたいなど、夢や願いはたくさんあります。そんな、あたりまえの願いが実現できるように、障害があっても一定の所得が得られるような働く場や所得保障制度が早急に必要です。



いくつになってもどんな時も 生き生きと暮らせる制度に！

自立した生活を送りたい。誰もが願うことです。生活のスタイルは様々ですが、選べるだけの社会資源がありません。グループホームも有効な社会資源ですが、どんな活用方法が狭められ生活しづらくなってきています。そのひとつが65歳問題です。65歳になったら介護保険へ移行する制度になっており、ヘルパー利用にも制限が生じ、支援する人も相談する人も変わります。急激な環境の変化に体調を崩す方もいるほどです。その上、利用料の1割負担は所得の低い障害のある人たちにとっては大打撃です。将来の不安で眠れない人もいます。65歳になったからといって障害がなくなるわけでもなく、より一層手厚い支援が必要になってくる人



社会保障をめぐる様々な制度は、国の財政抑制によって急激にかわつてきています。気づいたときには、手遅れだったということもあるでしょう。そうならないように、今、この署名がとも大事なになっていきます。安心して暮らせる社会を実現するためにご協力をよろしくお願いいたします！



も多くいます。だからこそ65歳になっても障害福祉サービスが利用できるように障害のある人の思いを第一に、安心して老後の生活が送れるようにしたいものです。

**(スローガン) あたりまえに働き、選べる暮らしを
～ 障害者権利条約を地域のすみずみに～**

(請願項目)

1. 障害のある人の所得を保障し、生活を支援する制度の確立を！

(本文をご覧ください)

2. 深刻な職員不足の解決に向けて、報酬体系の抜本見直しを！

国から事業所に払われる報酬が少ないことに加え、障害のある人が事業所に通えなかった日は、事業所に入るお金が減るという「日払い計算方式」により、事業所は厳しい運営を強いられています。そのため職員の給料の水準は低く、必要な正規職員を確保することが難しいのです。職員が長く仕事を続けられ、安定し・継続した支援ができるように、また若い人が福祉の仕事に関心を持てるように、給与水準を引き上げる報酬体系に見直してください。

3. 障害のある人が必要とする制度は原則無償に。介護保険優先原則は廃止を！

(本文をご覧ください)

4. 安定して運営できる地域活動支援センターを！

全国に3224カ所ある(2013年3月現在:きょうされん調査)地域活動支援センターの運営費は、国が示す標準額をもとにして市町村が決めています。支払われる運営費は、ほかの事業に比べてとても少ないうえに、市町村によって大きな金額の差があります。国の責任で、地域活動支援センターが安定した運営をできるようにしてください。

5. 障害関連予算の分配率を先進国の平均値なみに！

日本政府が障害のある人の生活を支える支援にかかる予算は、先進国といわれるOECD諸国のなかでも低く、障害のある人がない人と同じように働き、くらすための制度はまだ不十分です。障害のある人の生活を支える支援のための予算を、少なくともOECD諸国の平均レベルまで引き上げてください。

亀岡市で集める署名目標数は14,000筆です！

お一人(一筆)でも多くのご協力が必要です！よろしくお願いたします！



「ちょっと聞いてよ！」

第15回

いしだ のりよ
石田 里誉さん
(第三かめおか作業所)

石田さんは、丹波養護学校(当時)を卒業後、かめおか作業所で仕事をしておられ、一時期一般就労をされていました。今は第三かめおか作業所のお仕事をされています。そんな石田さんに、日々のことや、将来のことについて語っていただきました。

石田さんは、第三の地域就労で仕事をされていますが、どんな仕事をされていますか。

地域就労では、清掃作業や草刈り、イオンのカート集めなどを行っています。

石田さんは、東別院から来られますよね。毎日通うのが大変ではないですか。

毎日7時24分のバスに乗ってきます。帰りは、家に着くのが午後6時半過ぎの日が多いです。でも、慣れているので、大変ではないです。それに、朝は、バスの運転手さんと話もできるので、それが楽しいです。

地域就労で仕事をされていて、楽しいことはありませんか。

お昼休みに、お結びの2階にメンパーが集まって、みんなでお昼を食べますが、その時に、他のメンパーさんと色々な話ができることが楽しいです。



今年で54歳になる石田さんですが、これからしてみたいことありますか。就職してみたいです。昔に就職していたことがあるので、もう一度就職してみたいです。昔は、京丹波町まで通っていましたが、今は、亀岡市内で就職してみたいと思います。

将来について思うことはありますか。

親も高齢になってきたので、将来は仲の良いメンパーとグループホームで一緒に生活できたらいいなと思っています。

本紙「ひまわり」が機関紙コンクールで最優秀賞を受賞しました！



亀岡福祉会広報誌「ひまわり」が、日本機関紙協会京滋地方本部主催の機関紙コンクールに応募し、最優秀賞を受賞することができました。その表彰式がさる12月9日に、京都市のルビノ京都堀川でありました。

これも多くの「ひまわり」をご愛読いただいている皆様のおかげです。

これからも広報紙「ひまわり」を通じて、亀岡福祉会や利用者の方の日々の様子を伝え、読まれた方が笑顔になれる、そんな機関誌を目指していきたいと思えます。

やったあ



今年もアビリンピック京都大会に参加しました！

今年も、アビリンピック京都大会が、2月3日に、京都市伏見区でありました。アビリンピックは、障害のある方々が日頃職場などで培った技能を競う大会です。障害のある方々の職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々に障害のある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的として開催しています。



今年も、昨年に引き続き2度目の園田義英さんと、初めてとなる今西亜香音さん、鈴木直さんが挑戦しました。園田さんは、制限時間内に規定項目を全て終えることを目標に、今西さん、鈴木さんは、入賞することを目標に、11月から練習を始めました。

今西さんは、「入賞するために」を合言葉にできないことがあってもくじけずにがんばった結果、「本番では何位で入賞するのかな」ということを楽しみにできるレベルにまで到達しました。

鈴木さんは、見て覚えるのが早いという強みに、貪欲に努力する姿勢がプラスされ、「ほん

とつに入賞できるかも」という期待が持てました。園田さんは、うまくできないことでも、あきらめずに取り組む姿を見せることが、若い2人の何よりの手本になるという自覚をもって、練習に取り組んでいました。



本番当日。1番手の園田さんは、規定項目のほとんどをミスなくやり終えました。ただ、制限時間を少しオーバーしてしまったことだけが残念でした。入賞をねらった鈴木さん、今西さんは、ともに順調に競技に入れたかと思っただけ、考えもしなかったことがおこりました。

鈴木さんがある項目をやっている時、両手に持っていないといけない布巾の1枚が、突然左手からなくなっているではありませんか。よく見てみると、ゼッケンに布巾が引っかかっていた。でも、緊張のあまり鈴木さんはそれに気づいていませんでした。また、今西さんも、掃除機のコードを踏んでしまいました。練習ではそのようなハプニングを想定して何度も何度

も練習をし、完璧に準備してきたつもりでしたが、「緊張して、本当にこわいな」と思いました。でも、こればかりは、誰しもが通る道です。なので、仕方がありません。それぞれの目標に対して、3か月間の短期間でも、みんなが成長できたという実感を持てたことが、何よりの成果でした。

去年よりも落ち着いてできたので、自分ではよくがんばったと思います。(園田さん)

当日は足が痛かったけど、それを言い訳にせずに、最後までがんばれました。(鈴木さん)

ミスもあったけど、途中でくじけることなく最後までやり通せたので、良かったです。(今西さん)

参加したメンバーの感想



きょうされん第41回全国大会in京都の ホームページ&フェイスブックやっています!

URL : <http://kyosaren-kyoto41.com/>



フェイスブックも開設しています。
ぜひ「いいね!」してください!



11月号のきょうされん第40回全国大会in北海道参加報告の記事の中でご紹介してあげましたが、今年の9月には京都で全国大会が開催されます!スローガンは「ともに生きる」ともに創る 夢ある未来へ 京都から」です。亀岡福祉会からも職員、メンバーが実行委員となって大会の成功に向けがんばっています!この大会の詳しい内容、進捗を大会専用のホームページ、フェイスブックにてご紹介しております。検索していただくか上のQRコードを読み取ってご覧いただくこともできます。ぜひ一度ご覧になってください!

時

亀岡福祉会に勤め始めてから2年が経ちました。2年間京都市内の実家から電車通勤していましたが、2月の初めに亀岡に引っ越してきました。今まで通勤に片道1時間以上かかっていましたが、引っ越してからはたったの15分、プライベートの時間に余裕ができました。朝は毎日ゆっくり朝食を食べて、コーヒーも淹れてのんびり過ごせています。夜も自由に使える時間が増えました。

新居はスーパーや飲食店なども近所にそろっていてけっこう便利な場所です。家事をすべて自分でやるのは大変ですが、それを差し引いても生活が楽になったと思います。

もっと早く引っ越しておけばよかったと少し後悔しています。唯一気になることといえば、引っ越し祝いと称して、家捜しに来ようとしている先輩職員たちくらいです。

(T)

ご寄付 1月/2月

- 1/12 神谷 重平 様 金一封
- 2/5 伏木 様 お菓子
- 2/24 (株)カーブスジャパン 様 食料品、石鹸等

ご寄付ありがとうございました。